

2022（令和4）年度

目白大学短期大学部外部評価委員会 報告書

2022年11月5日

目白大学短期大学部

プログラム

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 出席者自己紹介
4. 議事進行
5. 閉会

外部評価委員会委員

敬称略、2022年11月5日現在

氏名	所属・肩書	*1
松下 秀房	学校法人目白学園 目白研心中学校・高等学校 校長	1号
内田 吉彦	有限会社芝榮太樓 社長	2号
卓間 萌水	株式会社 Criacao クラブ事業部地域共創室長	3号
谷口 俊顕	新宿区立落合第二地域センター 管理運営委員会会長 (上落合西町 会長)	3号
矢口 雅子	目白大学短期大学部校友会 会長	4号
岩倉 正枝	株式会社クレセントアイズ 代表取締役会長	4号
蛸名 勝之	一般社団法人東京都新宿区歯科医師会 会長	5号
入江 祐介	社会福祉法人パール 常務理事 特別養護老人ホーム パール代官山 施設長	5号

*1 目白大学短期大学部外部評価委員会規程第3条の号に合致した者

令和4年度 目白大学短期大学部外部評価委員会 議事概要

【開催概要】

開催日	2022（令和4）年11月5日（土）	
時間	13：00～14：30	
形式	Zoom ミーティングによる遠隔会議	
外部評価委員 出席者	松下 秀房	大学・高等学校等の教育機関の教職員
	卓間 萌水	地域の関係者・本学参画の地域活動の関係者
	谷口 俊顕	地域の関係者・本学参画の地域活動の関係者
	矢口 雅子	本学卒業者
	入江 祐介	本学に関して広く・高い見識を有する者
目白大学短期大学部 出席者	山田 隆文	学長
	小松 由美	副学長（司会進行）
	伊藤 浩正	製菓学科長
	上岡 史郎	ビジネス社会学科長
	内橋 賢二	歯科衛生学科長
	本勝 公二郎	大学企画室 課長
	笹川 裕太	大学企画室（事務局担当）

*欠席者（3名）からは、事前に別途書面にて回答を頂いている。

【議 題】

1. 開会

山田学長より、本学の状況について説明があり、忌憚のない意見をいただきたいとの説明があった。続いて、外部評価委員の皆様より、名簿順に自己紹介をいただき、次に、大学側出席者の自己紹介を行った。

2. 2020年度自己点検評価報告書について

「教育」「研究」「学生指導」「社会貢献」「その他」の分野の順に、事前に書面で回答のあった内容を各項目の冒頭で読み上げた後、外部評価委員に意見・質問を求めた。

(1) 教育について

～委員からの評価・意見～

① コロナ禍での教育

- ・短期大学部では実務教育に力点が置かれると思う。中高の視点から短期大学部に求める力は未来の自分に投資する忍耐力、将来を見据えた対処力、本質を見抜く理解力の3つが重要であると考え。卒業と同時に社会の有用な一員となりうる人材に育てほしい。
- ・コロナ禍において実践する機会がこの数年間は難しかった。実践する機会を増やして、地域と企業との連携を通じて達成感を感じられるようになってほしい。
- ・コロナ禍で町会の事業も規制がかかっていた。コロナの中で入学してコロナで卒業して行った学生も大勢いると推察する。在学生においてもリモート授業等の実施によりクラブ活動や、先輩後輩のつながりが少なくなっていたのではないかと心配している。短大は実習が多くあるので、どのようにケアされているのか気になる。
- ・コロナ禍になって3年目となり、ハイブリッドな授業を続けられている。基礎学力が高くない学生を育てて送り出すのはとても大変だと思うが先生方には頑張っていたいただきたい。リモート授業ではコミュニケーション不足を感じている学生が多くおり、就職活動の面接等で苦勞することが予想されるのでカバーしてあげてほしい。また、学科の目玉のようなものがあると学生募集に効果があるように感じた。
- ・今の学生は高校生活がコロナで規制があり、大学に入学してもコロナ禍で大変な時代だと思う。大学では専門性を身に付ける必要があると思うがその前提となる人間力が重要であると考え。そういったところに力を注いでいただいて、即戦力となる人材の育成をしてもらいたい。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・実践の場を増やすという視点について、1年生には桐和祭りにて授業の一環として製造したものを販売する実践の場を提供した。最初は声掛けもできなかったが、経験を積むにつれ声も出るようになった。コロナ禍の対応としては製菓学科では実習がメインとなるので、動画を撮影して遠隔授業で質問を受け付けていた。授業回数分の動画撮影が必要であったので、教員はほぼ毎日動画投稿を行っていた。実習が可能になった今年まで上記対応でのいざ形となる。高校時代のオンライン授業については、オンラインと対面だったケースが高校によってだいぶ違うので、本学でのフォローも様々な対応が必要であった。専門性より人間性という視点も今後必要になってくると考える。製菓学科では実習がメインとなるので、コミュニケーションをとる機会があり、おもしろいやりをもって接するように指導している。
- ・2019年から始まった歯科衛生学科であり、2年目からコロナ禍となった。その対応に追われる事となり、実習も対応に苦慮した。臨床実習先も本学から自粛という形をとった。ここ1～2年はハイブリッド授業となり、うまく活用できるようになってきた。医療人を育てるという事となるが、誠実さや真心といった自覚を持たせる教育をするのが難しいと感じている。

- ・事業計画書に沿ってアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム及びアクティブラーニングについて説明をし、ビジネス社会学科における目的意識について指摘した。
- ⇒・ビジネス社会学科の各コースを説明し、専門性より人間力の追求に尽力している学びがあると述べた。コロナ禍によるコミュニケーション力の不足を感じている。そのため、学校の中だけではなく、学外でも人との関わり合いをもつように指導をしている。

②短期大学部の入学者選抜の在り方について

- ・入学者選抜を複数回実施している事と色々な特長のある入試を設けてもらいたい事だと受け止めている。年内に進路を決めたいという心理もあるが、一般入試でいきたいという生徒もおり、様々な価値観をもつ生徒がいるので、多様な入試があるとありがたいと感じている。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・学生の意見として先日の学園祭について、学部学科を超えた体験ができたことや、トラブルが起ることにより問題解決能力を学ぶことができたとの事。今後、学生との関わり合いを含め地域の委員の皆様にも協力をお願いしたい。
- ・カリキュラムの内容を時代の流れと共に改編していく中で、学科独自の目玉となるような部分を打ち出せるように考えていきたい。

(2) 「研究」について

～委員からの評価・意見～

- ・紀要と学会での報告が活発に行われているように見受けられるが、構成メンバーはどのようになっているのか。また、学生たちがそれらを読んだ時の反応はどのようなものか。

《ご意見を受けての補足説明》

- ・紀要と学会の他に教授会にて研究発表しており、各教員が専門分野にて研鑽を積んでいる。科研費に関しては短期大学部ではなかなか難しい部分ではあるが、今後はチームを組んで取り組んでいけるように整えていきたいと思う。また、学生は各学科で卒業レポートを設けている。
- ・ビジネス社会学科では卒業研究については2年生がゼミ内において自由なテーマで取り組んでいる。現在の学生は文章を書くことを嫌がる傾向があるが、なんとか自分で考えて形にはなっている。
- ・科研費の獲得は難しいが紀要論文については全教員が投稿できるように努めていく。現在では所属教員の7割は投稿している。
- ・大学では学会発表や論文等の業績が必要になるので、若手の教員については紀要の投稿をサポートする事で育てているという状態である。

(3) 「学生指導」について

～委員からの評価・意見～

- ・目白の学生は外部で礼儀正しく、丁寧であるが大人しいという評判を聞くことがある。実際に外部で学生にあった時も服装も含めしっかりしており、教員の指導の賜物であると感じている。今の学生は人から指摘されるのは嫌がるが自己承認欲求が強い印象がある。コロナ禍で孤独を感じているのではないか。人から褒めてもらう機会も少ないのでそういう時にはとても喜ぶ。教員もささいなことでいいので、学生を褒めて指導してもらいたい。
- ・将来を漠然と考えている学生が多い印象がある。例えば歯科衛生士であれば、資格を取るのがゴールではなく将来の働く姿を想像できるように夢を描けるような学生指導をしていただきたい。また、専門性にあわせて基本的な人間力（当たり前の実践）を育む指導をしていただきたい。
- ・インターンシップを受け入れている中で目白の学生は態度がいいと感じている。今回のインターンシップは他大学との合同で行っており横のつながりを大切にしている。学内ではこういった機会は少ないと思うので活用してもらいたい。目標・夢を持つのが難しい時代だと感じており、そういった事を考える機会を提供できるようにしていきたい。
- ・目白の学生は大人しい印象がある。住宅街に大学がある関係で学生が目立つ。一般社会人としてのルールやマナーが希薄であるとの声もきく。まずは教員・地域が関わり合いをもって、その先に地域・学生が関わり合いを持てると良いのではないかと思います。

(4) 「社会貢献」について

《本学側の補足説明》

- ・公開講座を今後アナウンスしていきたいと考えている。
- ・歯科衛生学科としてこれから色々な形で地域連携ができると考えており、協力をお願いしたい。
- ・コロナ禍でストップしてしまっていた出張授業の実施や染の小道といったイベントにも今後参加していきたい。
- ・染の小道にはビジネス社会学科も参加していたので今後も協力していきたい。また、今年度はクリアソン新宿のインターンシップにも参加した。今回のように外部評価委員の皆様とのご縁もできたので、地域に学生を行かせていきたいと考えている。
- ・外部評価委員会も 3 年目となり当初は距離があったと思うが年々回を重ねる毎に地域との交流を深められているように感じている。来年度にむけて意見を取り入れて関係を築いていけるように事務方としてもサポートしていきたい。

(5) 「その他」について

～委員からの評価・意見～

- ・我が社としてもサッカークラブとして多岐にわたる事業をしていると再認識した。地域のイベントへの参加や、高齢者施設への訪問等を行ってきたが、学生の参加があると盛り上がりを感じている。学生にとっても自己実現の場になればと考えておりそれを通じて新宿が活性化されるような活動をしていきたい。
- ・教える側も自分たちの組織を振り返って評価していく事はとても大切な事だと感じた。問題が起きた際に学生側だけに責任の所在があるのではなく教える組織側の責任も大きいと思う。教える側の組織体制の問題を見直しスパイラルアップしていく必要があると考える。
- ・他の委員からのお話には3つ感心した内容があった。1つ目は「学校を選ぶ際に将来何になりたいかではなく何を学びたいか」との視点。2つ目は「この先どんな自分になりたいのかという目標を持ちなさい」との視点は自分たちにも通じることがある。最後に教える側の苦労を再確認できた。
- ・桐和祭でも地域と連携を密にしていた時期もあったので、また改めて地域の方々との協力を得て復活させていただきたい。これから短期大学部が存続するのは大変な時代になっていくので校友会もサポートしていきたい。7月には校友会だよりも発行しているので、何か宣伝したい内容があればご活用いただきたい。
- ・コロナ禍で大学教育も難しい時期が継続しており、世の中も不安定である。そういう時代であっても学生は大学を卒業し社会にでていく。そういった学生に人生100年を豊かに生きてもらうことが教育者の願いである。変化の大きい時代であるが、そういった中で生き抜くには、学び続ける人間性が求められるのではないかと。今後も高校側として支援していきたい。

3. 閉会

山田学長より、外部評価委員の皆様へ感謝を伝え、閉会した。

以上